

感染性胃腸炎が流行しています

例年、冬のこの時期は感染性胃腸炎の発生が最も多くなる時期であり、今後の流行拡大に注意が必要です。本校でも本日胃腸炎での欠席が5名となっています。

感染の拡大を防ぐため、うがい、手洗いなどを心掛けてください。また、体調が優れないときには、必ず医療機関を受診し、他の人に感染させないようにご協力ください。受診した場合は、医師の診断を学校にお知らせください。

以下に感染性胃腸炎についてまとめましたので、ご覧ください。

1 感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。

2 原因と感染経路

- ◆ 感染した人の便や吐物に触れた手指を介して、ノロウイルスが口に入った場合
- ◆ ノロウイルスを内臓に取り込んだ二枚貝を、生又は不十分な加熱処理で食べた場合
- ◆ 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- ◆ 感染した人の吐物やふん便が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを吸い込んだ場合

3 感染予防のポイント

- ① まず一人一人が手洗いをきちんと行うことが大切です。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ② カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう（中心部が85～90℃で90秒間以上の加熱が必要です。）。「大量調理施設衛生管理マニュアル」（厚生労働省）より
- ③ 吐物やふん便は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用し、適切に処理しましょう。
- ④ 吐物やふん便を処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

4 感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎には特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための処置が行われます。下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診してください。

嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をするように心がけましょう。

○登校再開の際には、学校へ治癒証明書を提出してください。治癒証明書は、西巣鴨小学校のホームページからもダウンロードすることができます。ご利用ください。

おう吐物の処理法

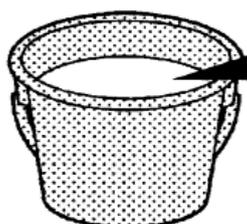
おう吐物にも、便よりは少ないものの大量のウイルスがいます。適切に処理して感染の拡大を防ぎましょう。

用意するもの

白衣またはエプロン、不織布マスク、ゴム手袋、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）、バケツ、新聞紙、ペーパータオル

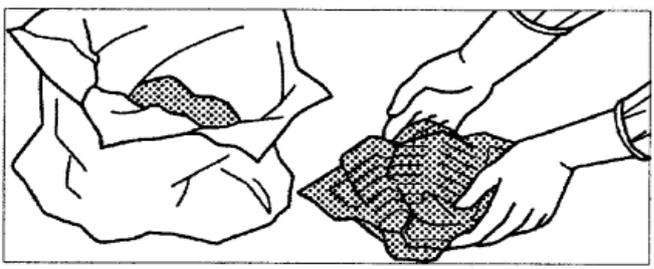
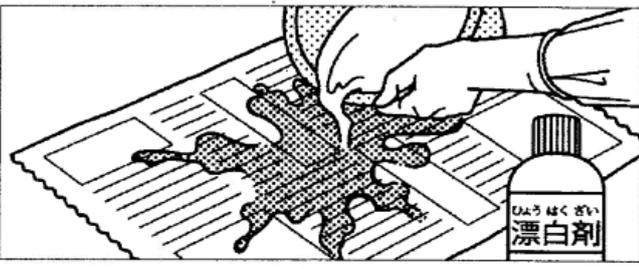
手順

①白衣（エプロン）、不織布マスク、ゴム手袋を装着し、0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液を作っておきます。

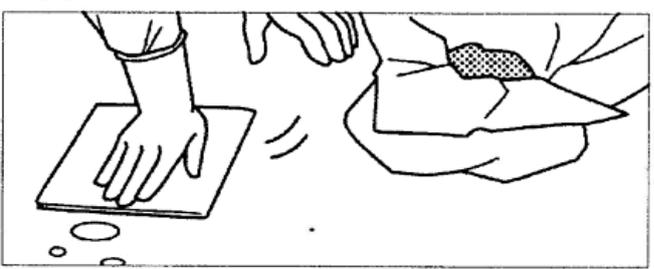
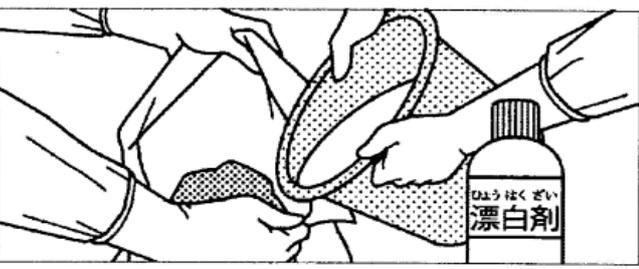


0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液
 次亜塩素酸ナトリウムは市販の塩素系漂白剤の成分です。漂白剤原液10mLに対し水500mLを加えることで、濃度が約0.1%になります。

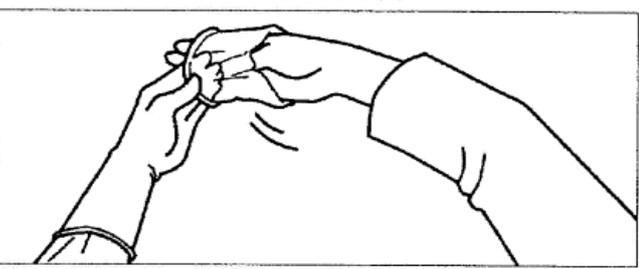
②換気をして、おう吐物に新聞紙（ペーパータオル）をかぶせ、上から次亜塩素酸ナトリウム溶液を染み込ませて、おう吐物を外側から内側に向けて拭き取ります。



③おう吐物をふき取った新聞紙（ペーパータオル）を入れたビニール袋の中や、おう吐物が付いていた床を、次亜塩素酸ナトリウム溶液を使って消毒します。



④床の消毒が終わったら、ゴム手袋は、付着したおう吐物が飛び散らないように裏返しに外して処分し、手を念入りに洗いましょう（次亜塩素酸ナトリウム溶液を含ませた雑巾などを10秒程度踏んで、靴底も消毒するとなお良いです）。



問い合わせ先
 豊島区立西巢鴨小学校
 養護教諭 田岡英里香
 電話 3918-6345